

来週の市場とレート予想

	10/23(月)	10/24(火)	10/25(水)	10/26(木)	10/27(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	△100	ト ン	△1,000	△1,000	△2,000
財政他	△22,400	+3,000	+3,000	△3,000	+1,000
資金需給	△22,500	+3,000	+2,000	△4,000	△1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(5年)			交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △2,000 CP等買入 △100 社債等買入 △100 国債補充供給 +1,500				
オペスタート	共通担保(全店) +1,600	国債買入 +9,900 短国買入 +5,000	社債等買入 +1,000		
(日本)	主要銀行貸出動向 アンケート調査(10月、日銀)	日銀営業毎旬報告(10/20現在) 日銀の保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		企業向けサービス価格指数 (9月、日銀)	消費者物価指数(CPI全国9月 東京都区部10月、総務省)
(海外)	欧 ユーロ圏消費者信頼感指数 (10月、速報値)	欧 ユーロ圏総合PMI (10月、速報値) 欧 ユーロ圏サービス業PMI (10月、速報値) 欧 ユーロ圏製造業PMI (10月、速報値)	米 耐久財受注(9月) 米 FHFA住宅価格指数(8月) 米 新築住宅販売件数(9月) 英 GDP(7-9月、速報値)	米 新規失業保険申請件数 (21日終了週) 米 中古住宅販売成約指数 (9月) 欧 ユーロ圏マネーサプライ(9月) 欧 ECB金融政策決定 トランプ総裁が記者会見	米 GDP(7-9月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ △0.025
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初370兆200億円から始まった。18日には短国買入オペを主因に増加し371兆8,000億円となった。19・20日は国債の発行を主因に減少し、週末は370兆1,300億円で越週した。無担保コールON物金利は、新積期に入りビッドサイドが慎重な動き出しとなったため△0.04%台～△0.05%台での取引となった。その後も週を通して横ばい圏の動きとなったことで加重平均金利は週を通して△0.041～△0.043%の狭いレンジでの推移となった。ターム物は、ショートタームを中心に地銀同士の△0.03%台～0.04%台での出合がみられた。20日、日経平均株価の終値は前日比9円12銭高の2万1,457円64銭で14日続伸し、56年ぶりに過去最長の連続上昇記録に並んだ。来週は、CPI全国9月(27日)、海外では、ECB金融政策決定(26日)、米国GDP7-9月(27日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.170 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は5,700億円強で、週間償還額の約2,400億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。連日、卸売・鉄鋼等複数の業態から、まとまった額での発行が確認された。20日発行では、幅広い企業からの発行があった。発行レートは、ほぼ横這い推移となっており、浅いマイナスから0%近辺での出合い。来週の償還額は、月末日償還の約6,500億円を含み、9,700億円程度となっている。25日や月末日スタートの発行では、償還を上回る発行が見込まれる。月末発行残高は昨年を大幅に上回り、16兆円台前半を予想する(前年同月:14兆1,412億円)。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での推移を予想する。26日には、CP等買入オペが3,000億円程度オファーされる予定。現先レートは、▲0.100%～0%程度の出合いで、横這い圏内での動きであろう。

<TDB>

18日に行われた国庫短期証券1Y第715回債の入札は、最高落札レート△0.1618%(前回債△0.1278%)、平均落札レート△0.1687%(同△0.1308%)と前回債からレートが大きく低下した。翌19日に行われた3M716回債も、最高落札レート△0.1861%(前回債△0.1768%)、平均落札レート△0.1924%(同△0.1865%)と前回債からマイナス幅を縮小した。セカンダリー市場は総じて堅調な地合で、3M物が△0.215%、6M・1Yが△0.173%で出合が見られた。

<レポ>

足許GCは、週前半△0.10%～△0.11%の資金運用ニーズが常時残る展開となり、△0.10%台半ば～後半の取引も一部見られた。以降は短国1Y,3Mの発行が続き、23日受渡しでは△0.095%～△0.10%まで上昇。週末には国債・国庫短期証券買入オペがオファーされ、△0.11%近辺まで小幅低下し越週した。SC取引では10年348回債のbidが週を通して多く、△0.10%台後半～△0.20%台半ばで多く取引された。5年133回債は16日の国債買入オペ後レートが急低下。入札日前日まで△0.50%を下回る出合いが続いた。その他2年377・378・380・381回債、5年130・131・132・133回債、10年336・340・341・342・343・346・347・348回債、20年161・162回債、30年55・56回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。